

昨年は5月の終わりに梅雨入りしましたが、今年は全国的に遅くなる見通しだとニュースで取り上げられていますね。ところで、みなさんは「さみだれ」という言葉知っていますか？漢字で書くと「五月雨」、この言葉は梅雨のことを意味します。5月の雨と書くのに？と不思議に思う人もいるかもしれません。昔と今の暦は約1か月ずれていて、昔の5月は今の6月頃のことです。「五月雨」はその時期に続く長雨を意味するため、同じ時期に降る梅雨と同じ言葉だと言われています。普段耳にする言葉も意味や由来を知ると印象に残ることがあるので、教科書で習う言葉も少し調べてみると記憶に残りやすいかもしれませんよ。

図書室利用案内

よく図書室で聞こえる悩みの答えを書いています。参考にしてくださいね。☺

Q. 何冊借りられますか？

A. 5冊借りられます。例えば、すでに3冊借りている時は、その3冊が返却期限内であれば、追加であと2冊借りられます。

Q. もう一度同じ本を借りることはできますか？

A. 返却期限内であれば延長できます◎

2週間の返却期限の間にもう2週間貸出手続きができます。延長希望がある場合は必ずお知らせください。貸出から3週間を過ぎてからの延長はできません。



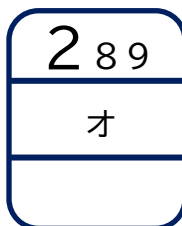
Q. 机の上や書架（本棚）の上に展示している本は、借りてもよいのですか？

A. もちろんOKです◎

定期的に紹介する本を替えているので、返却の際にはご注意ください。

Q. 返却場所がわからない！

A. まずは背表紙の3段ラベルを見てみましょう。



最初に3段ラベルの一番上の3つの数字を確認してください。図書室の本は出入り口から時計回りに数字の小さい順に並んでいます。同じ3つの数字の棚を見つけた後はアイウエオ順になるよう戻してください。見つけれない時には別の棚には入れず声をかけてください。



今月の本の紹介

図書室ではテーマが雨、書名に雨がつく等の「雨に関連した本」を紹介しています。今回はその中の2冊を取り上げたいと思います

『死神の精度』（伊坂幸太郎 作/文藝春秋）

「俺が仕事をすると、いつも降るんだ」

人間の世界に溶け込み、調査対象の人間が死ぬべきか否かを判定する死神。どんな時でも淡々と事務的で少し人間離れた存在ですが、人間の常識に疎い分、その受け答えは少し間が抜けていたり、こよなく音楽を愛していたりする姿はどことなく憎めません。

そんな主人公の千葉が他の死神と違うのは、彼が仕事をしている時はいつも雨が降っていること。雨が降っているときに少し風変りな人が身近にいたら、それは彼なのかもしれません。

『雨月物語』（木原敏江 漫画/中公文庫）

元は古典9つで構成されていますが、そのうち4つの話を漫画化したものが右記の「雨月物語」です。原作者は江戸時代中期を生きた上田秋成、雨がやんで月がおぼろに見える夜にこの本を編成したため雨月物語という名前にしたと言われています。この物語は時代、年齢、立場、様々な人間の周りに起きた怪異、ホラー小説です。ホラー映画やアニメでは人ではない存在が現れる場面は、独特なBGMや風景などで表現していることがありますよね。この「雨月物語」ではそういう存在が現れる前触れとして雨や月のある情景が積極的に用いられています。興味がある人はぜひ、そこにも注目しながら読んでみてください。

4・5月の図書貸出数

	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4
4月	111	133	148	47	14	15	4	18	7	3
5月	24	55	109	22	30	25	25	37	29	2

